

54件は全業種の9.6%に当たり、製造業のうち食料品（11.9%）、道路貨物運送業（10.3%）に次ぐ多さだった。

発生事例の内訳をみると、経験5年未満の人の事例が38件を占めている。帯広労基署の朝井寛幸安全衛生課長は「牛の動きや、ピットを開けたら閉めるなど、事業主が教育を徹底することが大事」と話す。

◆JA通じ事例共有

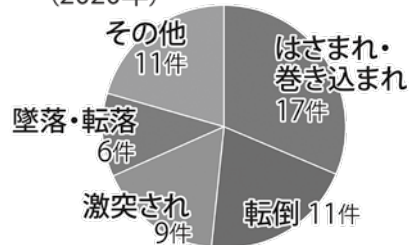
一方、畑作や野菜などに関する分類の「農業」は20年の労災発生が16件で、17件減少した。「はさまれ・巻き込まれ」が1件（11件減）、農機から落ちるなどの「墜落・転落」は5件（4件減）など。

帯広労基署はJAを通じて過去の発生事例の周知に努

めており、「それぞれの意識向上が発生件数の減少につながった。『農業』も経験年数の浅い人による事故が多く、機械が詰まった時は電源を切って作業をするなど、基本的な教育が必要」としている。

農業の全産業に占める割合は2.9%。

◆畜産業の労働災害の内訳 (2020年)



和牛五輪へ「育種組合」 推進部会を改組発展 十勝和牛振興協議会

2021年4月19日

【幕別】十勝和牛振興協議会（宮前裕治会長）が、協議会内の「育種推進部会」を発展させ、新たに「十勝和牛育種組合」を発足させた。19日に設立総会が開かれ、組合長に武隈英和氏（豊頃）が就いた。今後、全国組織の認定を目指すほか、2027年に「全国和牛能力共進会（全共）」が北海道で初めて開催されることも踏まえ、計画的な十勝産の種牛造成など集団での育種に取り組む。

同日午前、町百年記念ホールで開かれた協議会の定期総会で設立を承認。その後の組合設立総会で、事業計画を審議し、役員を選考した。

育種は良い種雄牛や雌の繁殖牛を生産する取り組み。もともと、育種推進部会は16年に協議会内に設置。17年に宮城県で開かれた全共への出品や受精卵活用の優良種牛造成などに取り組んできた。

育種組合の発足は、27年の北海道での全共も踏まえ、長期・計画的な繁殖牛や種雄牛の生産に取り組むのが目的。

全国和牛登録協会（京都市）では各地の育種組合を認定し、指導や活動支援を行って地域ブランド牛づくりに取り組んでいる。十勝和牛育種組合の今年度事業計画で

は、認定育種組合への申請を盛り込み、2021年6月にも「認定」を目指す。

十勝和牛育種組合は、組織的には十勝和牛振興協議会内に置く。組合員は育種関連牛の飼養者87戸。

武隈組合長は「十勝には和牛に熱意を持った生産者が多くいる。十勝が日本一の（和牛の）産地と呼ばれるように取り組みたい」と述べた。



武隈英和組合長

乳牛最多24万3,800頭 肉用牛は6%増の22万7,300頭 2020年十勝畜産統計 飼育戸数、乳用牛は減少続く

2021年4月24日

十勝農協連がまとめた2020年の十勝畜産統計によると、管内の乳牛飼育頭数は前年比3%増の24万3,815頭で、過去最高を更新した。肉用牛も22万7,332頭で6%の増加。概要を紹介する。

【乳用牛】

飼育戸数は2%減の1,236戸。戸数減は毎年続いており、5年前の15年比で10.8%減少している。

全体のうち約80%の988戸は個人経営の農家。頭数規模としては「101～200頭」が318戸で多い。法人経営は248戸。全体の20%で前年より1.5ポイント増加した。法人では「400頭以下」が155戸と最も多く、次いで「1,001頭以上」の26戸となっている。

飼育頭数は3%増の24万3,815頭。4年連続で増加した。全国的に離農が増える中、生乳の安定確保が課題となっており、近年の乳価引き上げも規模拡大を後押ししている。頭数は全国の18%（0.2ポイント増）を占める。

生乳出荷農家戸数は2.1%減の1,093戸。年間の出荷乳量別でみると、「1,001トン以上」の大規模経営が351戸で全体の32.1%、前年より1.1ポイント上昇した。